



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

◆連載◆ 全国学力・学習状況調査から見えてきたもの

Vol.2 全国学力・学習状況調査の活用について

先月号では、全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせしました。今月号では、学校における“全国学力・学習状況調査の活用”についてご紹介します。

三重県における全国学力・学習状況調査等の活用状況

Q. 平成25年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。
(「よく行った」「行った」と回答した割合) (平成26年度全国学力・学習状況調査結果より)

- 小学校……三重県：92.9% (全国：93.6%) -0.7
- 中学校……三重県：91.4% (全国：90.4%) +1.0

▲ 小中学校とも9割を超えています

平成26年度全国学力・学習状況調査の活用について

● 全教員が調査問題を解くなど、調査問題を学校全体で共有する取組を実施した。

■ 小学校：56.1% ■ 中学校：38.5%

● 児童生徒の解答用紙等を複写するなどして、早期に課題を把握し、課題改善に向けた取組を実施した。

■ 小学校：31.5% ■ 中学校：13.3%

(平成26年度管理職セミナーでの「学校における取組状況記入シート」集計結果より)

●●●全国学力・学習状況調査の活用方法●●●

■ 調査問題の活用

- 全教員で解く！・・・調査問題には、学習指導上の重点や児童生徒が身につけるべき力が示されています。問題を全教職員で解くことにより、それらを学校全体で共有し、学年や教科の枠を超えた授業改善につなげることが大切です。
- 他学年も解く！・・・調査対象学年で再度実施して定着状況を検証することも必要ですが、小学校5年生、中学校2年生等で実施することにより、課題を早期に把握し一人ひとりのつまずきに対応した継続的な指導改善に活かすことも大切です。

■ 児童生徒の解答の活用

- 教員自らが採点する！・・・解答用紙等を複写し教員が自ら採点することで、児童生徒一人ひとりの状況が早い段階で把握でき、個に応じたきめ細かな指導に活かすことができます。
- 解答類型に分ける！・・・具体的な授業改善の方向が見えてきます。また、類型別結果の活用により、課題となっている領域・内容の状況や類型別結果から見える授業改善の視点もわかります。

■ 調査結果の活用

- 結果の分析を行う！・・・各学校におけるPDCAサイクルの確立に向け、教科に関する調査と質問紙調査の結果の分析を行うことで、学校全体で取り組むための視点が見えてきます。

全国学力・学習状況調査の活用とあわせて、「ワークシート」や「みえスタディ・チェック」等を活用することにより、児童生徒の学力の定着状況や学習のつまずきを早期に明らかにし、学習意欲を高める授業改善に取り組んでいきましょう。

活用していますか？ ネット DE 研修

全国学力・学習状況調査の分析結果から見える課題と改善点とは何か？そして、その課題を共有して授業改善にどう活かせばよいのか？その参考となるコンテンツを「ネット DE 研修」に用意しています。今回は、その中でも、特にオススメの3本をご紹介します！

全国学力・学習状況調査の結果から見えてくること ～算数・数学を窓口として～

全国学力・学習状況調査の結果から見えてくる課題を明らかにするとともに、授業アイデア例をもとに授業改善のポイントを学びます。

文部科学省国立教育政策研究所
教育課程研究開発センター研究開発部
学力調査官 教育課程調査官

新井 仁



全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善 ～言語活動の充実を図る～

全国学力・学習状況調査の目的を再確認するとともに、各教科の実践事例をもとに言語活動の充実を通じた授業改善について学びます。

文部科学省国立教育政策研究所
教育課程研究開発センター研究開発部
学力調査官 教育課程調査官

樺山 敏郎



思考力・判断力・表現力等の 育成と言語活動の充実

子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむために、学校全体や各教科等の研修を通して、言語活動の充実を図った授業改善について学びます。

文部科学省国立教育政策研究所
教育課程研究開発センター研究開発部
学力調査官 教育課程調査官

水戸部 修治



【問い合わせ先】
三重県教育委員会事務局
研修推進課

TEL059 (226) 3659

ネットDE研修 X

Q 検索

子どもの人権が尊重される授業づくり

一人ひとりの子どもの学力向上に向けて、子どもの人権が尊重される授業づくりの視点をもとに、自分の授業を見直してみましょう。

【視点1】 自己存在感を持たせる支援を工夫する。

- ねらい1：「授業に参加している」という実感を持たせる。
- ねらい2：「自分が必要とされている」という実感を持たせる。
- ねらい3：教師自身が一人ひとりを大切に示す姿勢を示す。

【視点2】 共感的人間関係を育成する支援を工夫する。

- ねらい1：「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。
- ねらい2：「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

【視点3】 自己選択・決定の場を工夫して設定する。

- ねらい1：学習課題や計画を選択する機会を提供する。
- ねらい2：学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。
- ねらい3：学習方法を選択する機会を提供する。
- ねらい4：表現方法を選択する機会を提供する。
- ねらい5：学習形態や場を選択する機会を提供する。
- ねらい6：振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。

● 子どもの学力や進路を保障するため、ともに頑張りましょう！

学習意欲と思考力・判断力・表現力を向上させるために 生徒が相互に学び合う課題解決型の授業を創造する

● 光陵中学校長からのコメント ●

「興味をもって取り組める魅力ある課題」「学ばべき知識や考え方をフルに使い、他の人のアイデアや知識も導入してどうにか太刀打ちできる課題」を提供し、「教え込む」のではなく「学ばせる」ことができる授業づくりを目指しています。

日常を通した学校全体での **取組**

● 主体的な学びを中心とした授業を創造する

- ① その授業時間のねらいを達成できる適切な課題設定を研究し、課題解決型の授業を展開する
- ② 対話を通して生徒が相互に学び合うことのできる授業形態を工夫・改善する（コの字型の座席配置、4人グループの活用）
- ③ 学び合いの様子を丁寧に観ることで、学びに参加できていない生徒と他の生徒をつなぐ支援を行う

● 組織的に授業改善を行う

- ① 講師を年3回招聘し、授業改善研修を行う
- ② 「授業公開週間」を年間4回設定する中で、全員が一度は授業公開をする

● 家庭、地域との連携の強化を図る

- ① 学校だよりに学習面や生活面の課題や長所を掲載し、家庭と情報を共有し、社会性や学習習慣の向上を図る
- ② 「学校公開日」を設け、保護者や学校評議員に授業公開をする



全国学力・学習状況調査に向けた具体的な **取組**

● 生徒一人ひとりの学びの状況に基づいた授業改善を行う

- ① 1年数学の全時間、2年数学の半分でチームティーチングを行う
- ② 特に支援を要する生徒や日本語の指導を要する生徒の学習状況の推移を把握し、その生徒たちの学びを保証するための手立てを工夫する
- ③ 3年間の指導の系統性、各教科の評価における基準を確立させる

● 家庭や地域と情報共有を図る

- ① 授業づくりについて、PTA総会の場等で紹介する
- ② 全国学力・学習調査の前年までの結果をもとに、学校評議員と協議を行う



先輩

～学力向上アドバイザー～

からの メッセージ

実践推進校を訪問して…

教師が変わる、授業が変わる、学校が変わる、児童が変わる…。実践推進校を訪問してその変化を実感できることは、とてもうれしいことです。その例として、度会郡大紀町立大紀小学校の実践を紹介します。

当初、授業がまだまだ教師主導型である傾向が感じられましたが、日を重ねるたびに児童が主体性を持ち、伝え合う場が存在する授業へと変わってきました。

その要因として、自分の考えを伝えることで友だちの考えを揺さぶったり、友だちの考えを聞くことでさらに自分の考えを深めたりすることができる発問の仕方の工夫や、わくわく感のあるめあてを示し振り返ることができるための板書計画・授業構想の工夫などがあげられると思います。

また、児童の主体的な学びを目指した師範授業や授業へのアドバイスなど、校長先生の子どもたちの成長を願う教育への熱い思いが縁の下の力持ちとなっていることも忘れてはなりません。

まだいくつかの課題もありますが、目を輝かせて授業に向かう子どもたちの学習意欲やさらに向上しようとする先生方の意気込みなど、着実に成長していこうとする力がこの学校には息づいています。

【竹内 誠 学力向上アドバイザー】

コラム

“みえスタディ・チェック” で授業改善を！

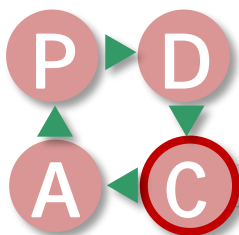
「みえスタディ・チェック」は、学習指導要領を踏まえ、知識・技能を活用する力の定着状況を確認するためのテストです。

「みえスタディ・チェック」の採点を通して、「あれ？この力が弱いのかな？」「この問題はしっかり時間をかけたところだから、よくできているな」など、子どもたちの学習の定着の状況を確認でき、自らの授業を詳細に振り返ることができます。

また、言語活動を適切に位置づけた授業において、自分の思いを表現したり、考え方を説明したりするとき求められるポイント等の確認にもつながります。採点からわかるこの「気づき」を授業改善のヒントとして活用し、子どもたちにとって「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できる授業を構築しましょう。

PDCAサイクルの確立

- 全国学力・学習状況調査問題やみえスタディ・チェック、ワークシートは「PDCAサイクル」の特に「C（評価）」で活用できます。



● 学校全体としての取組に向けて ●
授業実践や授業研究の進め方等における
成果や改善点の把握

● 児童生徒の主体的な学習に向けて ●
自らの学習の成果や課題の把握